

けんちく茨城

ARCHITECTURE IBARAKI 2019.10 VOL.101



一般社団法人

茨城県建築士会

<http://i-shikai.com>

けんちく茨城

2019.10.5 第101号

page	目次
01	特集 1 大納涼会
02	特集 2 第29回全国女性建築士連絡協議会
03	報告 水戸市と空き家対策協定を締結
04	先輩会員を訪ねて
05	ようこそフレッシュマン
06	建築作品紹介 地域交流センターいわま「あたご」
08	女性活躍による県産材の魅力、林業への就業促進
	支部活動報告
10	筑波支部 岩崎駿介氏の連続5回講演 第1回
12	県央支部 建築セミナー 「ル・コルビュジエという時代と現代」
14	筑西支部 「隈研吾 建築模型展」
	委員会活動報告
15	研修委員会 「改正民法が建築士の業務に与える影響」 および「働き方改革」講習会
16	会員委員会 チャリティーゴルフ・ボウリング大会
18	まちづくり委員会 結城の未来を考えよう ～人と歴史と町を結ぶワークショップ～
19	情報・広報委員会 茨城県震災建物『応急危険度判定士』講習会
20	青年委員会 関東プロ青年「埼玉大会」 ソフトボール大会
22	女性委員会 ラブアークセミナー 「紙漉き屋の家見学会&紙漉き体験」
23	旧白洲邸、武相荘見学会
24	わくわくセミナー 「住宅設備用エアコン」 「照明の勉強会」 「漆の話」 「いまどきのガス給湯器」

題字 大井川 和彦 茨城県知事
表紙 地域交流センターいわま「あたご」
設計・監理 株式会社 河野正博建築設計事務所

発行 令和元年10月5日
次回 令和2年2月5日予定
部数 2,250部
発行 一般社団法人 茨城県建築士会 会長 柴 和伸
〒310-0852 水戸市笠原町978-30 建築会館2F
TEL.029-305-0329 FAX.029-305-0330
E-mail kyy05413@nifty.com

編集 情報・広報委員会
市毛 純一 川又 晴彦 児玉 欽司 成田 孝成
大山 早嗣 武居 公江 浅野祐一郎 石黒 幸喜
塙 万治 稲野辺 浩 軽部 守彦 沢畑 一成
山田 一博 中村 正明 谷島 正憲

デザイン・印刷 株式会社 高野高速印刷



特集

茨城県建築士事務所協会・茨城県建築士会 合同開催

大納涼会

令和元年7月26日（金）午後5時から
ホテル・テラスザガーデン水戸

■総務・企画委員会 小川 憲一

夏の恒例行事である令和元年度の大納涼会が7月26日（金）「ホテル・テラスザガーデン水戸」において開催された。毎年、建築士事務所協会との合同開催であるが、本年は建築士会が幹事を務めた。参加者は来賓、正会員、賛助会員、建築士事務所協会員を合わせ総勢215名となった。

幹事会である当会、柴会長の主催者挨拶で始まり、続いて来賓の高橋靖水戸市長、海野透県議会議員、白田信夫県議会議員、西野一県議会議員よりそれぞれ挨拶をいただいた。

このほかの来賓として茨城県建築三課より建築指導課足立課長、営繕課小坪課長、住宅課和田課長、そして納涼会に先立ち行われた、建築士事務所協会賛助会総会の記念講演の講師である弁護士山形学氏にもご出席をいただいた。

合同開催の建築士事務所協会舟幡会長に、乾杯の発声をいただき納涼の宴に入った。毎年



のことではあるが、来賓も含め各会員相互や賛助会との交流が活発に図られ、和気あいあいとした中で大変有意義な催しとなった。また両会の会員である川又晴彦氏が今年度の国土交通大臣表彰を受賞したことに際して、両会からお祝いを贈呈し、その功績をたたえる祝いの会となった。

会は盛況のうちに進み、所定までの時間が大変短く感じられたとともに、いつもの年と比べ、参加頂いた皆さんが、最後までより多くいてくれたように感じられ、喜ばしい限りであった。関東地方梅雨明け前日の開催となった宴は本格的な夏到来間際の暑気払いとなり、最後は当会賛助会の大竹伸一代表幹事の中締めで、賑やかな雰囲気うちに終了した。



令和元年度 国土交通大臣表彰受賞 常務理事 川又 晴彦

特集

令和元年度 第29回全国女性建築士連絡協議会（東京）

■ 県央支部 浅子 明美

7月13日（土）14日（日）の2日間 全建女（東京）に初めて参加してきました。

初日は各都道府県からの熱心な活動報告や被災地報告に続き、今回の協議会の中でとても楽しみにしていた『和の伝統技術の継承と創造～新たなプロの育て方～』と有限会社原田左官工業所の代表取締役原田宗亮様より、建設業の中でも特に男社会という左官の職人の中へ女性を雇い入れ、その後女性の感性を伸ばし業務拡大に繋がったお話や、『寒い暑い重い』といった職人ならではの環境の中で、産休育休後の復帰、会社での対応などトークセッションを通して、詳しく楽しくお話していただき、和の伝統継承の新たな形を伺うことができました。

■ ひたちなか支部 浜中 本子

令和元年7月13日～14日東京田町の建築会館にて全国の女性建築士が集い盛大に開催されました。基調講演では建築業界を「女性の参入で業界を変える」ことをモットーとし女性が働きやすい職場づくりに取り組んでいる原田左官工業所の原田宗亮氏の講演を聞かせていただきました。現代の若者世代にも技能を習得しやすい育成方法を編み出し、左官業界の職場環境の改善やイメージアップに努めているということで今後の建築業界全体にとって頼もしいご意見をうかがうことができました。2日目は8分科会の中から「環境共生住宅 心地よい暖かさをもとめて」

夜の交流会では、来年度青年委員会で行う『関東ブロック茨城大会』の宣伝も兼ねて、各都道府県の方々にご挨拶させていただきました。

2日目は8つに分かれて分化会になります。私は『子どもと住まい』に参加しました。

福井県の『木の時間割造り』では出張授業の内容を発表していただき、和歌山県からは福井県の時間割から発展させてカレンダー造りに応用したり、オリジナル紙芝居を実際に披露して頂いたり、皆さん熱心な報告会でした。

2日間、非常に充実した協議会に参加でき私たちも何かできないかと考えさせられました。

という分科会に参加しました。私自身断熱と気密はどの程度必要なのか、居住者にとって質の良い暖かさとは、何が正解なのか漠然と疑問に感じていたところで、コメンテーターの洞口さんのお話ではとにかく施工前と施工後の温湿度測定、壁表面温度の測定をして、データの収集によって裏付けられる根拠が、居住者の求めるバランスの良い環境の提案につながることを学びました。気密測定、環境測定についてやメーカー機器に頼らないようにするにはなど、参加者全員の経験やご意見も伺えて刺激になりました。





報告

水戸市と空き家対策協定を締結

■ 情報・広報委員会 大山 早嗣

令和元年8月30日（金）水戸市と（一社）茨城県建築士会、茨城県弁護士会、茨城司法書士会、茨城土地家屋調査士会、（公社）茨城県宅地建物取引業協会、（公社）全日本不動産協会茨城県本部が、相互に連携協力し、水戸市内の空き家等対策の推進を図ることにより、安全・安心で活力あるまちづくりに寄与することを目的に「水戸市空き家等対策における連携協力に関する協定書」を締結しました。

水戸市内では現在、特定空き家の存在は確認していないものの、約870戸の空き家（長期放置）が確認されており、今後は、市が作成したリーフレットの配布や相談会、調査などで専門的な知識を活かし、

連携していくことになります。

高橋靖水戸市長からは「空き家対策のプロフェッショナルとして大変心強い。すでに動き出している」と聞いており、市民に安心安全な住環境を提供するため、官と民が連携し、対策に取り組んでいくことが大切になる。」と期待を寄せるコメントをいただきました。

空き家対策の支援に関するこれまでの実績・活動

- ① 空き家対策の推進に関する連携協定

平成29年度	日立市
平成30年度	土浦市、龍ヶ崎市、常総市、稲敷市、美浦村
- ② 今年度の空き家に関する無料相談会への協力（相談員を派遣）

つくば市	2回（年度内にあと2回開催）
牛久市	1回
ひたちなか市	1回
- ③ 特定空き家判定等調査の受託

平成30年度	石岡市
令和元年度	常総市



先輩会員を訪ねて



「建築士会って、何だ？」

川又 晴彦 氏（ひたちなか支部）

昭和31年生まれ／昭和53年入会／会員歴41年

建築士会って、何だ？。それが最初の印象。昭和53年に二級建築士に合格し、今で言う免許交付式に出席し、免許証をもらった帰りに、机をずらりと並べ、煙たそうなおっちゃん連中（失礼、大先生方）が並んでおり、声をかけられた。「建築士に合格したら建築士会に入るもんなんだ」。で私は「えっ、そうなんすか」といって早々に入会申込書なるものを書かされた。当時は那珂支部と称していた。そして現在に至る。

しかしながら、最初は面倒だったが徐々に顔を出すに従って、先輩や仲間との交流も増え、これが建築士会ちゅうんだとわかった。そのうち青年部長となり、茨城県デビューしてからは、県内全域の新しい仲間が増えた。とにかく、閉じこもりしてないで外に出ようよ。必ずいいことあるから。

現在では、私の美人若妻（それはない）も会に入会しており、様々な行事に積極的に（渋々）参加し楽しんでいる。

—後輩へのメッセージ

後輩に一言、と言われても、私自身は今でも青年部だと思っている。県のソフトボール大会にもいまだに現役として（いい加減にせいやと若手から聞こえてくるが）参加している。なので説教じみた話はしない。とにかく頑張れ。突っ走れ（ほどほどに）。建築士会は棺桶に入るまでやめるな。

添付の肖像画？は、私の長男が小学1年生の時に「わたしのおとうさん」と題して描いてくれたものだ。あのころ私も若かった。



「父は大工！」

武村 実 氏（茨城県建築士会副会長）

昭和30生まれ／昭和53年入会／会員歴41年

父が大工で、住み込みの弟子の他、数名の大工、下職の職人さん等、木造建築と言う環境の中で育ち、父も建築士会の会員で有り、建築士会活動には一緒に出掛けていました。私達の頃は建築士に合格すれば建築士会に入会するものと思っていました。他の支部と違って真壁支部は建築業関係の会員ばかりで常に、酒飲みの会合が多かったように思いました。それにより会員相互の信頼が強く、義理がたい人達ばかりでした。当地区では50年の歴史がある茨城県建築士会県西協議会（当時9支部、現在7支部）が有り、9支部そろって、親睦事業、勉強会等、現在でも活発に活動している。当支部においても平成17年、18年に真壁のまちづくりに着手し、ワークショップを開催した。真壁の町並みに合うよう、ブロック塀の板塀化を推進し、実績が認められ、国土交通大臣賞を受賞し、まちづくりに携わった全員（24名）で表彰式に参加し、喜びを共有しました。東日本大震災では、多くの地元会員、県内外の会員の協力の基、ガソリン不足の中、5日間で2,000棟もの応急危険度判定が実施され、建築士会組織の団結力に感謝しております。

—後輩へのメッセージ

会員の特権を最大限利用し、活発に行動して下さい。よく会員のメリットが無いということを聞くが、メリットは求めるものではなく、求めに行くものと、私は思っています。又、国家資格者である建築士は業務を止めるまで勉強を続ける義務があると考えます。一人でも多くの人達と出会う事で、いろんな知識、情報が自分の中に入ってきます。それが自分の知識で有り、知識も建築士にとっては技術だと思います。建築士会の親睦事業、まちづくり事業等、進んで参加し、一人でも多くの人と出会い、仲間を増やして下さい。人間一人では生きていけません、皆が助け合って生きていることを認識してほしい。

Welcome Freshman!!

- ①氏名・支部
- ②勤務先
- ③自己紹介
- ④入会の目的
- ⑤建築士会に期待する活動・参加したい活動
- ⑥建築士として将来の目標



古川 このみ
JR水戸支部

- ①古川 このみ JR水戸支部
- ②東日本旅客鉄道株式会社 水戸建築技術センター
- ③会社からのお誘いもあり、入会させていただきました。有資格者となれた喜びと怖さを噛み締めながら日々業務しております。よろしくお願いいたします。
- ④建物の視察会などの参加を通して、他会社の方との交流をしてみたいです。
- ⑤ママ建築士が無理なく活躍できる場を考えるなど、働き方に関するセミナーなどあったら面白いなと思っています。
- ⑥地域ごとに合った、快適で安全な魅力ある駅空間を適宜提案できるプロになりたいです。『日々研鑽』で頑張ります！

- ①人見 恭司 39歳 筑波支部
- ②工務店 市松 経営
- ③市松は、2011年1月に常総市にて創業しました。代表の人見です。大工であり、建築士でもあります。主な業務内容は、新築、リフォーム、リノベーション、家具製作。ひとつひとつの出会いを大切に、真剣に向き合い、信頼関係を築きながら地域の方々のパートナーとして愛される工務店を目指しています。
- ④自分の尊敬する人や、面白そうな人たちがたくさんいたので、入会をしました。日々、変化していく建築について学び、実践することと、いろんな建築家の方々のデザインを、より身近に見て感じる事です。
- ⑤建築を通しての学びの場や、親睦を深める場、地域の交流の場、アウトドアやワークショップなどを定期的で開催して、子供たちに楽しく木にふれあう機会を提供し、木の豊かさを感じてもらいたい。そんな活動をしたいと思っています。
- ⑥建築士という職業を、より魅力的に感じてもらい、それを伝える事ができる建物を作る事。



人見 恭司 39歳
筑波支部

建築設計・監理 耐震補強 特殊建築物定期報告

Architectural Design

株式会社 相澤建築設計事務所



代表取締役 相澤 晴夫

〒300-1256 茨城県つくば市森の里1169-2
TEL : 029-876-0617 FAX : 029-876-0679
E-mail : info@aizawa-arc.co.jp
URL : http://aizawa-sekkei.com/

地域交流センターいわま 「あたご」

建築作品紹介

設計 主旨

計画地概要と「ENGAWA」に
込めた想い

JR東京駅「丸の内駅前広場」
に用いられた「稲田石」の産地・
笠間市の岩間地区に本計画地があ
る。敷地内に立つと、日本三大火防神社として名高
い愛宕山を臨むことができる。

「愛宕山は、私たちの心の拠り所」。この想いは、
住民会議を経て決定した本施設の愛称「あたご」に
強く象徴される。

計画地周辺では、長年住民から愛される多数の催
しがある一方、日常は閑散とした寂しい空気が漂っ
ていた。

これを受け、本施設の理念を
「ENGAWA」と定めた。縁側は、内と
外、人と人・もの・記憶・歴史等を繋ぐ
空間である。都心だけではなく、田舎で
さえコミュニティが希薄となりつつある
現代。私は本計画を通じ、「地域の縁を
紡ぎ、次世代に続く多世代交流を生み出
す『ENGAWA』作り」に挑戦したいと
考えた。

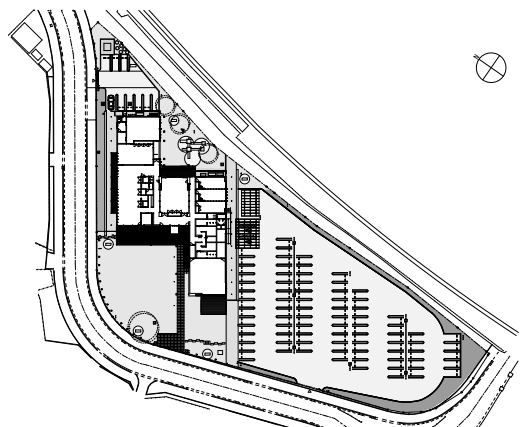
配置計画と各棟の特徴や効果

本施設は来訪動線を考慮し、敷地の北西側を「人
のための空間」、南東側を「車のための空間」と明
確に分離した。

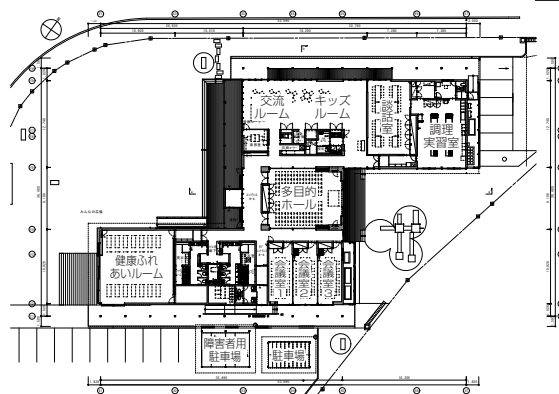
また、建物は雁行配置とし、北西棟を「おもてな
し空間」、南東棟を「市民活動空間」、2棟を繋ぐ中
央棟を「多目的空間」、また、愛宕山へと広がる外
部空間は「みんなの広場」と位置付けた。

おもてなし空間に広がる「交流ルーム」南面には、
イベント等の「舞台」となる大縁側を設置。また、
夜間や休日には地元の中高生が静かな室内で勉学に
励む姿が見られる。





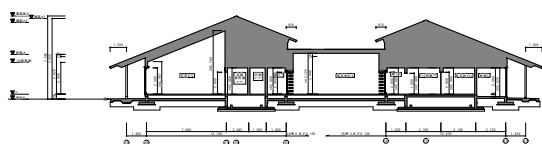
配置図



平面図



a-a' 断面図



b-b' 断面図

断面図



東側立面図



北側立面図



西側立面図



南側立面図

立面図

市民活動空間に設けた「健康ふれあいルーム」は、天井まで伸びる大きな窓が特徴である。これは「愛宕山の雄大さを常に感じたい」という住民きっての要望であった。また、更衣室のシャワールームは、愛宕山でハイキングを楽しんだ観光客も利用可能である。

多目的空間は可動式の間仕切りを導入したことでフレキシブルな利用を可能にした。また、本施設は全館で営利目的の活動ができるため、市民活動の幅も広がっている。

外構計画と積極的な地場産材の活用

岩間駅との景観的統一を図るため、駅外壁と同色の墨黒色にしたほか、大壁面には杉材の目地棒で軽快なリズム感を演出し、圧迫感も軽減させた。屋根勾配は愛宕山の稜線に合わせている。

外壁をはじめ軒天井等には県産の杉材を多用し、東石や雨落とし、車止めには廃棄予定の稲田石を使用し、地場産材の有効活用モデルを構築した。

最後に、本施設が愛宕山など自然の豊かさとこの地に根付く文化や歴史を次世代に語り継ぐ、住民の誇り高き「地域の拠点建築」へと成長することを期待したい。



■建物概要／地域交流センターいわま「あたご」

- 所在地 茨城県笠間市下郷字芝山4438番7
- 設計・監理 株式会社 河野正博建築設計事務所
- 建物用途 集会場
- 敷地面積 6,332.39 m²
- 延床面積 1,004.987 m²
(交流棟947.19m² 駐車場35.00m² 駐輪場22.80m²)
- 構造・規模 交流棟：木造、駐車場・駐輪場：鉄骨造、地上1階

「林業・建築の女性就業者による県産木材の魅力発信」 (公社)茨城県林業協会

女性建築家の皆さんと 県産木材を活用した木造建築物

e-do design 建築設計事務所の
江ヶ崎雅代さん



新田真之建築設計事務所の
砂中志穂さん



株式会社茨城県南木造住宅センターの
杉山絵美さん



ましたが、結婚を機に夫の地元である茨城に建築士事務所を設立し、現在に至ります。木材を使った住宅は飽きることがないで、年齢に関わらず好きでいられているので、設計する際は細かい部分に気を配り、建築家が女性だからこそ安心して相談できるというお客様もいらついていますね(e-do design 一級建築士事務所・江ヶ崎雅代さん)

「大学で建築を専攻し、ハウスメーカーに就職。その後、もっと深く建築に関わりたいとの思いから二級建築士を取得し、現在の設計事務所に転職しました。御夫婦で御出でのお客様では、特に奥様は建築家が女性だと相談しやすい、というところはあると思います」(新田真之建築設計事務所・谷中志穂さん)

「結婚は17プログラマーですが、結婚を機に退職。その後育児が落ち着いた頃、ものづくりが好きだったことから設計に興味を持ち、CADを学び、現在の事務所に転職しました。私の会社では、構造と仕上げにはほぼ100パーセント県産木材を使っているのですが、木材の好きなお客



いばらき森林ガールの専務員である
茨城県林業協会の石川理事

2019年8月20日に対談した様子

様には、表面を磨いた丸太をそのまま柱にしたり、木材の調湿作用(湿度を調節する作用)を活かすような浴室や洗面所には県産木材を積極的に使ったり、多様なご提案をしています」(株式会社茨城県南木造住宅センター・杉山絵美さん)

このように女性の素材生産者は「自然への愛」、女性建築家は「ものづくりへの愛」が感じられましたが、県産木材の特徴や魅力について次のように語ります。

「茨城県の森林は寒暖の差が大きいことから、良い木材が育ちます。ぜひ多くの方に使ってもらいたいですね」(岡田さん)

「県産木材は艶や粘りがあるのが特徴で、木目が美しいところが魅力だと思います」(椎名さん)

「食べ物でもその土地のものを食べるの良いと言つように、木材も地元のものを取り入れることで、エネルギーを感じられると思います。また、無垢材は肌触りも良く、子どもたちの教育にも最適です」(江ヶ崎さん)

「県産木材を使うということはまさに地産地消です。いばらき森林ガールの仲間が一生懸命伐採した木材ならば、なおさら活かしたいですね」(谷中さん)

「同じ種類の樹木でも育った地域によって質が違うので、茨城で育った木というのは、茨城で使うのが一番。木にとっても人にとっても良いと思います」(杉山さん)

大井川知事に聞きました！ 県産木材と 林業の未来はいかに？



県産木材の今後の展望について大井川知事は次のように語ります。

「茨城県の気候は樹木の生長に適しており、質の良い木材が採れます。県産木材は地域の風土に合った素晴らしい木材です。県民の皆様は県産木材を使っていたために、ぜひともいばらき森林ガールの皆さんに県産木材の魅力を発信していただきたいですね」

森林を守るといふ熱い想いで白汗を流している女性の素材生産者の岡田さんと椎名さん、無産木材という名のバトンは女性建築家につながれ、木のぬくもり

溢れる住まいが生まれています。みなさんもこれをつかぎに林業の魅力と茨城県産木材を使用した住まいについて、今一度考えてみてはいかがでしょうか。



1964年4月3日土浦市生まれ。茨城県立水戸第一高等学校、東京大学法学部卒業。ワシントン大学ロースクール修了。1988年、通産省(現・経済産業省)に入省。その後、マイクrosoft、システムズ、ドワンゴを経て、2017年9月26日に茨城県知事就任。

「茨城県産木材利用推進月間」 とは？

茨城県では県産木材利用促進を図るため「茨城県県産木材利用促進条例」(平成26年4月施行)に基づき、毎年10月を「県産木材利用推進月間」として積極的な県産木材の利用促進に取り組んでいます。

問い合わせ先

●林業への就業相談窓口
公益社団法人 茨城県林業協会
(茨城県林業労働力確保支援センター)
電話: 029-225-5949
FAX: 029-225-6847

●県産木材の家の相談窓口
茨城県産材普及促進協議会
(事務局: 株式会社茨城県南木造住宅センター)
電話: 029-852-8010
FAX: 029-852-8005

茨城県産木材利用推進月間特集!



株式会社茨城県産木材利用センター

杉山絵美

(すぎやま・えみ)

茨城県産木材利用推進センター

谷中志穂

(やなか・しほ)

茨城県産木材利用推進センター

江ヶ崎雅代

(えがさき・まさよ)

茨城県知事

大井川和彦

(おおいがわ・かずひこ)

茨城県産木材利用推進センター

岡田瑞穂

(おかだ・みずほ)

茨城県産木材利用推進センター

椎名琴絵

(しいな・ことえ)

茨城県産木材利用推進センター

石井邦一

(いしい・くにかず)

女性の素材生産者から女性建築家へ ～茨城県産木材のバトン～

いばらき森林ガール

現在、茨城県内では林業における素材生産や建築業に従事する女性、『いばらき森林(もり)ガール』が活躍しています。今回は、そんないばらき森林ガールと茨城県の大井川知事、茨城県林業協会の石井理事長に、女性ならではの仕事のやりがいや茨城県産木材(以下、『県産木材』)の魅力、また、林業と県産木材の今後の展望について対談していただきました。

「自然が好きだったんで、林業を学びたいと思い県立大子清流高校森林科に入学。実習で高性能林業機械やチェーンソーでの伐採を体験したときに、講師の方々の姿に憧れ、私もやってみたいと思い就職しました。現在は、森への感謝の気持ちを忘れずに、日々、間伐などの現場作業をしています(椎名さん)」

県産木材を伐採し活用する素材生産現場から建築へとつながる想い!

林業従事者の大半が男性で占められている中、茨城県内の森林では現場で活躍している女性が増えています。茨城県産木材利用推進センターの岡田瑞穂さんと大子町森林組合の椎名琴絵さんは就業のきっかけを語ります。

「父が山林を所有していたこともあり、林業は身近な存在でした。自然に携わる仕事はないかと考え、林業に携わる仕事になりました。現在は現場で樹木の伐採や苗木の植え付け・下刈りを行っています。男性との体力差を感じることはありますが、自分には難しいと思ったら周りの人を頼り、無理なく仕事をすることができています(岡田さん)」

県産木材を伐採し活用する素材生産現場から建築へとつながる想い!



高性能林業機械を操縦する椎名さん。

「本当に頼もしいです。そうとうな重くのは茨城県林業協会の石井理事長、お二人とも自然が好きだという想いのものと、日々現場に立っています。一方、その木材を使用して木のぬくもり溢れる建築を行っている『女性建築家』の皆さんは女性ならではの視点で設計を行っています。『大学卒業後、ハウスメーカーに就職し



間伐作業中の岡田さん。

岩崎駿介氏の連続5回講演 「地球に生き、これからの都市と建築を考える」



岩崎駿介氏連続5回講演会の第1回目「現代を切る、今、何が問題なのか!」が令和元年7月13日(土)につくばイノベーションプラザにて開催され、我々筑波支部は協賛としてお手伝いさせていただきました。岩崎先生との出会いは昨年度、筑波支部賛助会員である(株)インテグラルが主催した講演会に支部会員が参加したことがきっかけでした。その時の岩崎先生の年齢を感じさせぬ話力、奥底から湧いて出てくるような圧倒的な人間力に魅せられ、数か月後には支部会員有志で岩崎先生の自邸「落日荘(12年度JIA環境建築最優秀賞受賞)」に伺い、夫婦二人三脚で自力建設している話も聞かせてもらい、惜しみ

もなく自邸の見学までさせていただきました。

このような出会いから始まり、今回の講演会に協力させて頂くまでには、幾多の紆余曲折がありましたが、岩崎先生との信頼関係が実を結び、無事に1回目が終了しました。

当日は90名を超える参加申し込みがありましたが、残念ながらやむを得ず欠席された方がいて、71名の参加者のもと開会となりました。講演時間3時間、前半90分は岩崎先生がお一人で講演し「現在の世界で何が起きて何が問題になっているのか」と問題提起がありました。休憩をはさみ後半の90分では、ゲストコメンテーターとして武蔵工業大学教授で建築



環境学の権威、宿谷昌則先生と地方自治総合研究所研究員の菅原敏夫先生の講話もあり、また参加者との討論もあり、白熱した講演会でした。

ヤマモモ狩り体験

SDGs目標3「あらゆる年齢のすべての人々に健康的な生活を確保し、福祉を推進する」

女士倶楽部にて、オーガニック農業活用の促進、住に食の取り組み強化を目指す「食農部会」を準備委員会として、農イベントとしてヤマモモ狩り体験を7月7日に開催しました。安心・安全地元産の食農体験会等を通し、広く一般の方々に建築士会の活動に目を向けて頂きたいと思っています。

場所：六斗の森キャンプ場前の株式会社中泉建設



建築物の足もとを揺るぎないものにするための 「支持力」を提供します。

■ バイル製品

高支持工法に対応 $F_c=105\text{N/mm}^2$ $F_c=123\text{N/mm}^2$ シリーズ杭
(PHC ST SC PRC 拡張杭 節杭 ※厚型・特厚型も対応)
PHC ST SC DAM BF(摩擦杭)その他

■ 認定工法

Hybridニーディング工法(施工品管理強化高支持力工法 $\alpha=336\sim880$) ●特認工法
Hybridニーディング工法II(施工品管理強化高支持力工法 $\alpha=350$)
SUPERニーディング工法(さらに支持力が大幅UP/ $\alpha=600$)
SUPERDANK工法(中掘) $\alpha=425$
ニーディング工法 DANK工法(中掘) BFK工法
Lev-Pile 構法



三谷セキサン株式会社

東京本社 〒111-0052 東京都台東区柳橋2-16-9 TEL.03-5821-1122 FAX.03-5821-1123
茨城営業所 〒310-0062 茨城県水戸市大町3-1-26 TEL.029-221-7768 FAX.029-221-7749

※ 設計のお手伝いもいたします。(是非お試しください)

<http://www.m-sekisan.co.jp>



「ル・コルビュジェという時代と現代」

酷暑の8月8日（木）、夕刻から約20名が参加者し県総合福祉会館研修室にて、第100回目となる県央支部建築セミナーが催された。講演者は建築家であり若き近代建築史の研究者である工学院大学・実践女子大学客員講師平井充先生に、意外なル・コルビュジェの真実、偉業、現代建築に及ぼす影響について解説いただいた。ル・コルビュジェは一人格ではなくアトリエのパートナーや協力者が融合した人格であり、更に巨匠の私生活での人間臭い一面を伺った。なお、ル・コルビュジェの唯一国内に存在する作品である国立西洋美術館の建設当初の復元のプロジェクトでは、館長室がオリジナルの特徴的な模型通りに再現されとのこと。

シャルル＝エドゥアール・ジャヌレ通称ル・コルビュジェは時計職人の子としてスイスに生まれ、家業を継ぐべく地元の装飾美術学校に進み専門的な大学教育は受けていない。後に権威的なボザールとの対立は必然である。視力が弱いため時計職人を諦める。在学中、ル・コルビュジェの才能を見いだした校長のすすめで、建築家のルネ・シャパラと共に最初の住宅『ファレ邸』の設計を手がける。後にパリにへ行き、鉄筋コンクリート建築の先駆者であるオーギュスト・ペレの事務所に、1910年にはペーター・バーレンスの事務所に籍を置き、短期間ではあったが実地で建築を学んだ。翌年には東欧・トルコ・ギリシャ・イタリアを巡る東方への旅へ

出た。ラ・ショー＝ド＝フォンの美術学校で教鞭を執った後、1914年に鉄筋コンクリートによる住宅建設方法である「ドミノシステム」を発表。1917年にパリへ行き、2年ほど鉄筋コンクリート会社に勤めた。1920年代から建築家として本格的に活動を始める。雑誌『レスプリ・ヌーヴォー』（L'esprit Nouveau）を創刊。この頃からル・コルビュジェというペンネームを用いた。ペレの下で働いていた従兄弟のピエール・ジャンヌレと事務所を構えた。1923年に著作『建築をめざして』を発表し、世界の建築家から注目される、この中の「住宅は住むための機械である」という言葉は、建築思想の代表的なものとしてよく引用されるが誤解もされている。また、26年には、「新しい建築の5原則（ピロティ、自由な平面、自由な立面、水平連続窓、屋上庭園）」を提示。その理念を体現した最高傑作が「サヴォア邸」。大戦後、主張の実践である「ドミノシステム」に基づく集合住宅『マルセイユのユニテ・ダビタシオン』を建設。また1951年からはインドに新都市チャンディーガルを建設する際の顧問として都市計画および議会・裁判所などの設計に携わった。後期の代表作『ロンシャンの礼拝堂』ここでは従来主張していた近代建築の指標である機能性・合理性を超える新たな表現に達した。ドミニコ会派カトリック信者であるル・コルビュジェは、引き続き『ラ・トゥーレット修道院』の設計についても依頼を受け

た。建築と数学とを学び、後に現代音楽の作曲家として名を挙げたヤニス・クセナキスがル・コルビュジエの弟子として設計に参画している。「モデュロール」の理論はクセナキスの所産と言ってもいいが、ル・コルビュジエにより建築の実践の場において機能性あるいは美学の達成への応用された。この間に『国立西洋美術館』の基本設計のため1955年に一度来日する。彼の弟子だった3人、前川国男、坂倉準三、吉阪隆正が実施設計を行った。1960年には自らの仕事の記録を公的に保管することを構想し、1962年にはフランス文化相のアンドレ・マルローにこれを認めさせた。1961年にはAIAゴールドメダル、

1964年にはレジオンドヌール勲章を相次いで受賞した。南フランスの1965年に仕事上のパートナーだったアイリーン・ 그레이の〈E.1027〉を臨むカップ・マルタンで海水浴中に心臓発作で死去するまで、世界各地に建築史に刻まれる建築作品を多数残す。代表的なものに〈サヴォア邸〉〈ユニテ・ダビダシオン〉〈ロンシャンの礼拝堂〉など。2016年には、7カ国の17作品が世界遺産に登録され、その中には日本の国立西洋美術館も含まれている。今なお世界中で絶大な人気を誇る、不動の巨匠建築家である。



株式会社 **市毛建築設計事務所**

代表取締役 **市毛 純一**

〒311-4152 水戸市河和田2丁目2190-7
TEL 029(253)1331 / FAX 029(253)3511
E-mail : j-ichige@sunshine.ne.jp



「隈研吾 建築模型展」 筑西市「廣澤美術館」にて開催中

筑西市茂田ザ・ヒロサワシティ内に建つ「廣澤美術館」は、世界的に活躍されている建築家・隈研吾氏の設計による美術館です。氏は敷地内に積まれた大量の「巨大な石を使った組石造」迫力ある空積み

の石と建築が一体と感じられる建物を実現しました。美術館は、2020年夏にグランドオープンいたします。今回の展覧会は、グランドオープンまでの期間、新国立競技場他、国内外の数々のプロジェクトに携わられてきました隈研吾氏の、これまでのプロジェクトの模型や写真パネルを展示しました。

また、9,800㎡の敷地に建物を取り囲む3つのエリア「迎えの庭」「憩いの庭」「やすらぎの庭」を、作庭（斎藤忠一氏）・ランドスケープ設計（設計組織 PLACEMEDIA、宮城俊作氏）等、各分野のスペシャリストにより、景観整備中ですので、その途中経過も楽しめます。

開催期間：2019.6.24～2020.5.31

開館時間：10:00～18:00

（入場17:30まで）

休館日：水曜日、年末年始

入場料：無料



「改正民法が建築士の業務に与える影響」 および「働き方改革」講習会レポート



さる8月21日（水）、茨城県開発公社ビルで33名の参加者で実施いたしました。改正民法は来年2020年4月から適用されます。これらは基本的枠組みが大きく変わることはないようですが、例えば契約解除制限は撤廃され、完成引渡後でも可能になるなど、契約や業務、あるいは責務へ影響を今まで以上に及ぼすことが推測されます。

これらは現時点で法律の記載文面上で読み取るしかなく、細部においての事例は施行後の判例次第だと考えます。今後我々の経営環境や業務システムを考慮すると今まで以上に注意喚起する必要があると

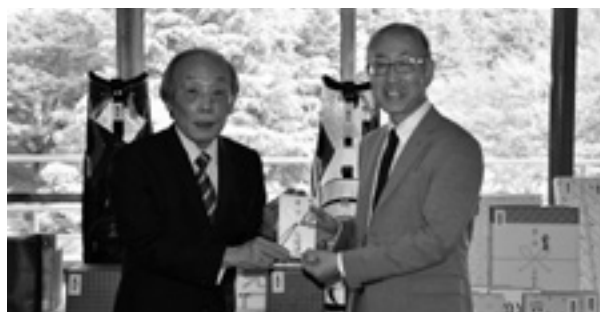
考えます。また、同様に建築士のスキルの一層の向上や施主との信頼関係、契約事項の内容理解や記録保持が紛争回避する手立てであると考えます。

また、「働き方改革」の講習は特定社会保険労務士の岩崎広行先生より、我々の業界の状況や就業形態に直接的に関連するポイントの解説と受講者からの積極的なQ&A形式の講習形式となり、知りたい事項や、それぞれの事業所に組み込むべき事項の解決になったと思います。

総括すると、前半の改正民法（DVD講習）については関連法律用語以外にあまり馴染みがない言葉であったため、もう少し噛み砕いた説明が欲しかったと思います。また働き方改革同様に、我々の業務に直接的に影響を及ぼす法律であるため、しっかりと理解し会員には教育をする必要があると考えます。文末となりますが、今後も研修委員会の開催行事に積極的な参加をお願いいたします。



第29回チャリティーゴルフ大会



第29回茨城県建築士会チャリティーゴルフ大会が、令和元年6月19日（水）に富士笠間カントリー倶楽部にて、総勢109名が参加し盛大に開催されました。梅雨時期でしたが、大会当日は大変素晴らしい天候にも恵まれ、ベストなコンディションの中、大会が進行出来ました。成績結果は、新ベリア方式となり、「個人の部：久慈支部 秋山一三様」・「女子の部：久慈支部 市川三和子様」・「団体の部：石岡支部」がそれぞれ優勝いたしました。また、ベスグロは、スコア71で石岡支部の小暮真一様です。

競技終了後は、親睦会を兼ねた表彰式が開催され、主催者の柴会長の挨拶、またチャリティー金といたしまして、金20万円が社会福祉法人 茨城県同心園様に寄付されました。

109名全員に景品・商品が授与され会は終了いたしました。

近年では、若い建築士及び建築士会員がだいぶ減ってきております。今回のチャリティーコンペも、若い方の参加が非常に少ない大会でした。来年以降は、是非若い方にも参加していただき、普段交流の出来ない別支部の方々との親睦・交流を深めていただきたいと思います。

最後に、商品をご提供くださいました各会員・賛助会員の皆様、ご支援をいただき誠に有難うございました。

次回も多くの皆様の参加をお待ちしております。有難うございました。



個人の部

優勝	秋山 一美	(久慈)
準優勝	益子 聡	(日立)
3位	久保田 孝	(石岡)
女子優勝	市川三和子	(久慈)
ベスグロ	小暮 真一	(石岡)

団体の部

優勝	石岡支部
準優勝	賛助会
3位	鹿島支部

「第12回ボウリング大会開催」活動報告

令和元年8月24日（土） 水戸グリーンボウル

第12回茨城県建築士会のボウリング大会が、今年も水戸グリーンボウルにて盛大に開催されました。各支部の会員・ご家族・賛助会員合わせて58名に参加していただきました。

柴会長に始球式を行っていただきましたが、なんとストライク！会場は大盛り上がりとなる中、ゲームがスタートいたしました。

ストライクやガーターが出るたびに会場は大盛況をあげ、普段なかなか顔合わせの出来ない支部の方々や、賛助会員様とハイタッチや、握手などにも交わされ親睦を深め、楽しいレクリエーションとなる事が出来ました。

最後に会場にて、表彰式が行われ、個人賞・団体賞が発表され、参加者全員にプレゼントが手渡しさ

れました。

今回参加していただいた方々、協賛をしていただきました方々、本当に有難うございました。



個人の部

優勝	島田 哲	(石岡)
準優勝	中山 康弘	(筑波)
3位	和田 淳一	(県央)

団体の部

優勝	建築センター+1 チーム
準優勝	桜川支部 A チーム



有限会社

クボタ建築設計事務所

代表取締役
一級建築士

久保田 吉 文

事務所 〒315-0001 石岡市石岡3055-9

TEL 0299-23-9305 FAX 0299-23-9307

E-mail: info@kubota-sekkei.co.jp URL http://kubota-sekkei.co.jp

熱意・創意・誠意

特定建設業・一級建築士事務所



since 1960

株式
会社

代表取締役
一級建築士

根本工務店

根本 勝 義

<http://www.nemoto-komuten.com>

〒310-0913 茨城県水戸市見川町2131-436
TEL 029-241-1227 FAX 029-241-8500



結城の未来を考えよう ～人と歴史と町を結ぶワークショップ～

6月2日（日）にまちづくり委員会主催のワークショップが開催されました。

今回の開催地は北部市街地に歴史的な街並みが残る結城市。

会員はもちろんのこと、高校生、大学生、地元市議会議員、一般の方など約40名の参加をいただきました。

結城市役所敷地内にある結城市公民館にて開会セレモニーが行われ、その後はまちづくりに関する座学。結城市都市計画課、地元のまちづくり団体 結プロジェクト、武村実副会長にお話をいただきました。

座学終了後は5班に分かれての町歩き。それぞれの班に案内役がおり、歴史と伝統の街並みを説明を受けたり、写真を撮りながら歩きました。

町歩きが終わり、昼食休憩後はいよいよメインのワークショップ。

町歩きをした班がそれぞれのテーブルに分かれ、意見を交換しあいました。約1時間の意見交換の後、模造紙に各々の思いが描かれ、最後は各グループがまとめた結果を発表しました。

どのグループも結城の歴史的町並みや

建造物に素晴らしさを感じながらも、その魅力の人々に発信できていないという指摘をしておりました。今後は結城の魅力をメディアやSNSを活用して発信すべきとの意見でした。

今回のワークショップでは参加した地元市議会議員からも感想を聞くことができ、結城市にとってもとても有意義なものとなりました。

8月26日からは新市長に変わりましたので、このワークショップの結果を伝え、建築士会の存在価値を行政にアピールしてまいります。



茨城県震災建物『応急危険度判定士』 登録・更新講習会について

令和元年9月3日（火）、茨城県庁において『茨城県震災建築物応急危険度判定士講習会』が開催され、新規93名、更新7名の100名の方が受講されました。あいさつでは茨城県土木部建築指導課長より震災建築物応急危険度判定制度の概要と新潟県中越地震での、ご自身の体験談を話され応急危険度判定士の重要性和意義を話されました。

講習では、第一編 応急危険度判定基準から始まり、構造種別毎の判定方法の手順と注意点等について講師の先生方から判定調査シート記載方法と判定時の考え方をテキストと写真等で説明がありました。また新潟県中越地震・中越沖地震等の際、判定士として現場での体験されたことについてもお話していただきました。

私も民間の判定士として平成16年に起きた新潟県中越地震で小千谷市と川西町で判定業務を行った際、高齢の住民が避難所に行けなく応急危険度判定が終わっていきたく自宅の前にテントを張り不安な夜を迎えている様子を目撃しました。

住民の気持ちに寄り添いながら、1件でも多く又



速やかな判定を行い住民が安心して戻れるようにと判定活動を行いました。

我々の任務は余震による被災建築物の危険性を判断し、二次的被害を防止することを目的としています。限られた時間内で効率よく件数をこなす判定作業が求められます。その中で、被災者に対しては事務的、機械的に調査をするだけではなく、所有者の方には判定結果の内容等分かりやすく説明し、また判定結果を掲示することが大切と思いました。

大規模地震はいつどこで起きてもおかしくないと言われています。派遣の依頼により現地に駆けつける私達も余震等による危険と隣合せて作業をすることになり応急危険度判定士の資格を更新するか迷う方も多くいらっしゃいますが、そうした中でも社会貢献をするために今回、多くの方が講習会を受けられたことはとても頼もしく感じました。

今後も応急危険度判定士の新規・更新の方が更に増え、いつでも災害時に対応ができるような体制作りを進めて行けたらと思います。





「関東甲信越建築士会 ブロック会埼玉大会」に参加して

令和元年6月21日（金）・22日（土）、埼玉県秩父市にある「ナチュラルファームシティ農園ホテル」にて、「令和元年度関東甲信越建築士会ブロック会青年建築士協議会埼玉大会」が開催されました。

今年は「建築よく 埼玉秩父に集う未来をつくる 青年建築士」という大会テーマの下、全体会議、分科会、懇親会が執り行われました。

茨城県建築士会からは、日立支部青年部の加藤雅史さんが中心に行った、水戸市泉町2丁目の「マチノイズミプロジェクト」の活動を発表しました。学生を巻き込んだ活動は将来の建築士会の入会と地域貢献に繋がるということで多くの方たちから関心を得ることができました。

第二分科会では「これからの建築材料」というテーマで「セメント」「木材」「レンガ」それぞれで講師を招いて講義と他都県の方々とのディスカッション

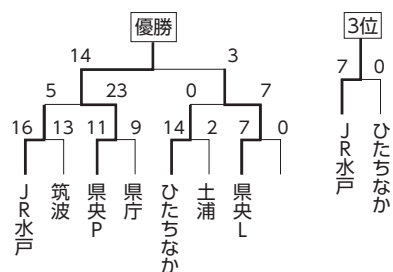
を行いました。建築ではよく使う材料なので、参加者も真剣に講義を聴き且つディスカッションも積極的な発言が多かったため、非常に有意義な時間を過ごすことができました。

第三分科会では「クロスロードゲームでワークショップ」というテーマで防災ゲームを行いました。近年自然災害の多さもあり、参加者から様々な意見が飛び交い他都県との交流も図る事が出来、楽しかったという感想が多くありました。

来年は茨城県での開催となります。分科会、懇親会等で名刺サイズのフライヤーを配り、来年の大会参加を積極的に勧誘・PRし、多くの方々から参加意思と興味を寄せることができました。多くの方々の期待に応えるためにも来年の大会運営を成功させる意欲が湧いてきました。



優勝	県央P	最優秀選手	田家 頌太 (県央P)
準優勝	県央L	敢闘賞	中武 武 (県央L)
3 位	JR水戸		



E-mail : info@kono-arc.com URL : <http://kono-arc.com/>

「西の内 紙漉き屋の家見学会 &紙漉き体験」 を担当して

■ 県央支部 轡田 久恵

竣工から26年、施主の菊池三千春さんが漉いた西の内紙ですっぽりと包んだ憧れの「西の内 紙漉き屋の家」。設計された中村昌平先生のご厚意で、現在も大切に住まわれている中、見学させて頂ける貴重な機会をいただきました。

施主の菊池さんご夫妻はこの機会にと、見学会に合わせて作家さんにお願ひし、ラック虫で染めた赤の色鮮やかな新しい「紙布」の畳縁の座敷で中村先生と共に私たちを出迎えて下さいました。

26年という年月の中で西の内紙がどのように変化しているのかとても興味がありました。実際に目にしてみると、手漉きの西の内紙をこんなにやく糊で経師屋さんが貼った壁や天井はまったく劣化しておらず、普段目にしている障子紙が時が経つと黄ばんでしまうのとは反対に、日の光があたるところは優しく柔らかく白っぽくうつろい、味わい深く美しいものでした。設計された中村先生と紙漉き職人の三千春さんとの熱い想いがひとつとなった「紙漉き屋の家」は時を経て尚、本物ならではの魅力を放っていました。



また、普段は立ち入れない漉き場に入れて頂き、三千春さんと現在「紙のさと」を継いでいらっしゃる甥子さんの大輔さんの指導の下、一人ずつ紙漉きを体験させていただけたのも大変いい思い出になりました。

中村先生が「地元の西の内紙を皆さんの仕事の中で是非使って行って欲しい。分からないことがあれば知っていることは何でもお答えします。」とおっしゃられた想いをこの場をお借りしてお伝えさせていただきたいと思います。

今回お声を掛け下さいました中村先生はじめ、施主の菊池さんご夫妻、紙のさとの皆さん、貴重な機会を有難うございました。

そして沢山の皆さんに参加申込みを頂き、この見学会を楽しみにして頂いたことも、私たち担当にとりまして準備を進めていくにあたり、とても励みになりました。当日のご協力も有難うございました。今回の見学会は、中村先生にお声を掛けていただいてから一年越しで実現することができました。皆さんに感謝でいっぱいです。有難うございました。



「旧白洲邸、武相荘見学会」(東京都町田市)

■土浦支部 西原 有希子

全国女性建築士連絡協議会の後に行われた「旧白洲邸、武相荘」の見学会へ参加させていただきました。

当日は小雨が降ったり、止んだりしており地面を少し湿らせた中見学してまいりました。

駐車場からの門を一步踏み入ると、そこまでの道のりが嘘であるかのように森が広がり、また、そして足元ばかりを見ながら進むと、階段に気づき上を見上げると「武相荘」が目に入ってきます。

長屋門をくぐると、茅葺のこんもりとした建物が見えてきます。茅葺の屋根にこだわりを持っていたようで、当時の姿のままかわいらしい印象を与えてくれます。

建物は農家として建てられたものを白洲夫妻のセンスで改装されており、玄関土間はタイル貼で絨毯



やソファを配置して「椅子」を楽しめるように改装してありました。

中の展示は本当に気に入ったものを少しづつ集めたという言葉がしっくりくるような小物使いです。透明のランプシェードにドライフラワーを刺した花瓶。古代ガラスを集めたネックレス。現代と違って、少し厚めのガラスの小皿、氷の音が素敵に響きそうな薄い水色のガラスの器、よく見ると模様がメダカになっている麻の浴衣。

どれもこれも本当に素敵なものばかりで、当時の素敵な生活が目に見えそうです。

展示の中には、GHQと戦った痕跡も残されており、「吉田のトイレトペーパー」と言われたサンフランシスコ講和条約の書き直しも展示されており、白洲次郎・正子夫妻の魅力を感じられる建物でした。

今回のセミナーは、心に潤いを与えてくれるセミナーでした。



女性委員会 (わくわくセミナー)



「住宅設備用エアコン」 健康な空気と暮らすためのエアコンのお話

■ 土浦支部 平島 かよ子

開催時刻が毎回より一時間早かったためか、19名
申込み中14名の参加者でした。

講師はパナソニックの経験と商品知識豊富なエ
アコン推進部長と熱心な研究スタッフの女性の二名。

- * エアコンを選ぶ基礎知識
- * 他社のエアコンとの機能の違い（なかなか他
では聞けません）
- * 新開発により加わった機能の説明
- * 機種の違いによる電気消費量の比較：カタロ
グの見方

上記の内容を映像・実験を交えて詳しく説明して
頂きました。

これから迎える本格的な暑さに備えて、参加者一

同熱心に耳を傾け質問も多くありました。

今後のエアコン選びに大変役に立つと、参加者の
感想でした。

会 場：パナソニックショールームつくば



総合建設業
一級建築士事務所
株式会社 小薬建設

〒308-0805 茨城県筑西市稲野辺45

TEL 0296(22)5266

FAX 0296(22)5455

URL <http://www.kogusuri.jp/>

わくわくセミナーの企画担当をして

■土浦支部 富田 順子

1月の「わくわく企画会」は、自宅のそばの気になっていたレストランで開催されました。なので、食事につられて参加してしまいました。希望だけ考えて！と言われていたのでのんびり遠足みたいな勉強会が良いかなあ程度の安易な参加です。

私の前の席に座っていた中村さんから 一緒にやりましょ！とおっしゃって頂き、一人でなければ やっても良いかなと簡単に引き受けました。

照明の勉強会は、何年か前だし 最近の照明の勉強をして、美味しいもの食べましょう。と、直ぐに

テーマが決まりました。

コイズミ交渉は、中村さん、お食事担当が私。

メールでのやり取りがメインで 一度ランチしながら確認したのも、楽しかったです。

コイズミでは、LED、ダウンライト、AI等最新の機器を見て学びました。

また、食事も皆さんに喜んで頂けたようで良かったです。

今回、企画担当させていただき、より皆様の協力を感じいろんな形での親密な関係ができて、やらせて頂き感謝しております。



6月わくわくセミナー

■土浦支部 橋本 珠美

6月のわくわくセミナーは「漆の話」を企画し、うるしの初歩の話を聞けたら良いな、と漆・木工作家である がっちゃん（宮田岳）にお願いしました。彼は私の従弟であり、今セミナーの講師として呼んでも良いものか悩みましたが、結果から言ってしまうと「やって良かった」です。

本職のミュージシャン活動に加え、漆活動の幅を広げていることががっちゃん自身丁度悩んでいた頃だったようで、今セミナーの資料作成や建築士集団の前で色んな話をするうちに、今後も自信を持って

自分なりのスタイルを通して行けば良いんだ、と頭の中の整理ができたようです。

受講して下さった皆様、ありがとうございます。

神戸出身ですが、大学入学を機に茨城県を気に入ったようで、今では茨城県民を楽しんでいます。県内で、Eテレで、その他どこかで見かけた時にはちょっと気にかけてもらえると

このように宣伝で担当者感想文を閉じさせてもらう価値があります。(笑)



信頼・伝統・技術の
特定建設業

〔茨城県知事許可(特-28)第384号〕



株式会社

幸 田

代表取締役

幸田 君子

〒300-0504 茨城県稲敷市江戸崎甲 3282

☎ 029-892-2921 FAX 029-892-7433

E-mail : kk_koda2@k2.dion.ne.jp



「いまどきのガス給湯器」

■ 筑波支部 若柳 綾子

7月24日（水）夕方6時半から表記のタイトルで14名の参加者に6名の講師による説明をして頂き、追ってショールームに移動しガス器具の最新機能等を体験する為の調理見学も良かったです。まず、省エネルギー住宅のZEH化について、効果を上げるには給湯器の比率が大変高いことを学びました。続いてリンナイの“ラク家事×健康×快適×安心×省エネ”のテーマに沿って座学を受けました。

衣：ガス乾燥機乾太くんの性能は速く乾き、省エネで部屋干しの悩み解決。食：自動制御を備えて音声でもでてお手入れしやすいガスコンロとレンジフード・食洗器を体験。住：給湯器はお湯はりや床暖房をスマホや声で操作。隣にもう一人出来る主婦がいる錯覚すら抱きました。省エネに加え、家事の時間

短縮により、子育て世代には最も大切な子どもとじっくり向き合う事ができます。東日本大震災以来オール電化が見直される中で、有意義な学習でしたし、試食体験も臨場感もあり、美味しかったです。



創業330年の実績 安全・安心・快適な住空間をご提案



株式会社 奈良屋

代表取締役社長 市橋 薫

〒310-0852 茨城県水戸市笠原町600-15

TEL.029-241-5141 FAX.029-305-8733 <http://www.naraya-corp.co.jp>

カラー鋼板の新時代へ

ニスクカラー Pro[®] 誕生!!

ニスクカラーの発売から約10年。長期美観維持・利便性向上
ニーズの高まりに合わせてニスクカラーは進化します。

原板には次世代ガルバリウム鋼板エスジーエル[®]を標準採用。

塗膜は確かな実績のニスクカラーをベースにNISCの技術を結集し

全色 原板穴あき最長25年 塗膜最長15年保証を実現!

更に一部色相では変退色最長15年保証にも対応!

ニスクカラーPro[®]は快適な暮らしと美しい未来づくりに貢献します。

エスジーエル[®]は日鉄鋼板(株)の登録商標です。

NIPPON STEEL

エスジーエル
次世代ガルバリウム鋼板 **SGL[®]**

日鉄鋼板株式会社

東京支店 〒103-0023 東京都中央区日本橋本町1-5-6 第10中央ビル
TEL 03-6848-3837(代) FAX 03-6848-3838
ホームページ <http://www.nisc-s.co.jp>

定尺横葺屋根 14・18

GMルーフ220

優れた耐久性・デザイン性・経済性・軽量性!
伝統の横葺屋根をスッキリ、表情豊かに仕上げました。

BM かんごう立平葺

デコルーフ

安全性とシンプルな縦ラインの美しさを兼ね備えた
吊子一体型のかんごう立平葺。

使用
原板

エスジーエル
SGL[®]

55%Al+2%Mg
マグネシウムの防錆効果により、
ガルバリウム鋼板の

3倍超の耐食性を発揮!(*1)

(*1)日鉄鋼板株式会社複合サイクル試験の
腐食減量測定結果から推定

表面処理めっき鋼板の最高峰

ニスクカラー Pro[®]

- 穴あき**25年保証**
 - 塗膜**15年保証**
【塗膜のふくれはがれ】
 - 変退色**15年保証**
【著しい変退色(一部色のみ)】
- ※海岸500m以遠
※各保証には別途条件があります



B/MC

ビルトマテリアル株式会社 <http://www.built-material.co.jp>

本社:〒153-0041 東京都目黒区駒場3-12-41 Tel.03-3460-3111
茨城営業所:〒319-0106 茨城県小美玉市堅倉1585 Tel.0299-48-2281

- ビルトマテリアル株式会社は、
日鉄鋼板株式会社のグループ会社です。
- SGL[®]、エスジーエル[®]は日鉄鋼板株式会社の登録商標です。

2016~2018



SHIBA
ARCHITECT
OFFICE

株式会社 柴建築設計事務所

水戸市泉町 3-1-28 第二中央ビル 7 階

TEL 029 (227) 0222

FAX 029 (231) 0960

<http://www.shiba-arc.co.jp/>



一般社団法人
茨城県建築士会